

Hyogo Prefectural Museum of Art
Ashiya City Museum of Art & History
Hakushika Memorial Museum of Sake



どこでもミュージアム わくわくワークシート

芦屋市立美術博物館

中学生対象

美術を深く探求しよう!



この絵を見て、感じたこと、思ったこと、考えたことを書いてください

作品名 ... タイトルをつけるとしたら何にする？ なぜそのタイトルにしましたか？

制作年 ... 描いたのはいつ頃だろう？

素材 ... どんな道具と材料で描いたのかな？どこからそう思った？

気になったところ ... 絵を見て思ったこと、感じたことを書いてみよう！

本ワークシートは、中学生以上のみなさんを対象にしています。

「これは何を描いているの?」「これがなんで美術作品なの?」と感じる方もいらっしゃるかもしれません。見たこと、聞いたことのない表現方法に出会ったとき、戸惑いながらたくさんの疑問が出てくるでしょう。それは作品を真正面から感じるためのとても大切な感情です。「わからない」で立ち止まってしまうのではなく、「どうしてこうなんだろう?」「なんでだろう?」と感じ、その感じたことを自分なりに考えることが美術を楽しむスタート地点になるのです。作品をじっくり鑑賞してみてください。心が引きつけられるポイントがたくさん見つかると思います。その感覚をまずは言葉にしてみたいかがでしょう。それはどんな言葉でも大丈夫。感じた人の嘘のない正直な気持ちは、あなたにしか生み出せない言葉ですから。美術の世界を楽しんでください。



作品紹介



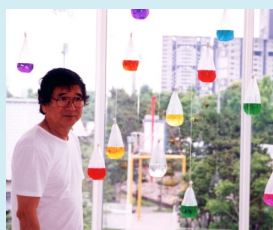
もとながさだまさ
作者：元永定正 制作年：1962年 サイズ：134.0×182.5cm
タイトル：作品 素材：油彩、水性樹脂塗料、綿布、板

今から約60年前に作られた作品です。元永さんは、1955年に具体美術協会（1954-1972）というグループへ入会、メンバーと一緒に新しい美術を作り出すことに情熱をそそぎました。水や煙といった形が定まらない動きをもった素材で作品を作ったり、抽象絵画の制作も行いました。1958年頃から、日本画の「たらしこみ技法」（絵具が乾かないうちに他の色を垂らして混ぜり合う効果を用いる方法）にならって流動性と偶然性を用いた絵画を手掛け、魅力的な表情の作品を生み出しました。じっくり見ると、小石のような粒が貼り付いていて、でこぼこした画面も面白いですね。*モニター画面を拡大すると細部が見えます。

タイトルは《作品》。作品につけられる名前から想像されるイメージを取り払いたい、描かれているものを見て直接的に感じてほしいという思いのもと、《作品》という名前がつけられました。

みなさんは、絵を描く時、どんな道具を使っていますか?ペンや絵筆以外にも、いろんな道具で描くこともできるし、道具を使わなくても、元永さんが本作を制作したように、絵具独自の動きでいろんな形を作ることができるのです。みなさんも新しい描き方に挑戦してみてください。美術の世界は広くて大きいですよ。

元永定正（もとながさだまさ）



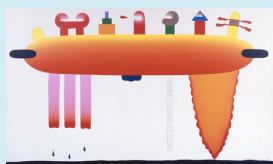
元永定正さんと《水》1992年

1922（大正11）年 - 2011（平成23）年

現在の三重県の伊賀市に生まれた元永さんは、現在の三重県立上野商業高校を卒業後、働きながら雑誌に漫画を投稿する青年でした。大人になってから、大阪の中之島洋画研究所に通い、その後、郷里の伊賀の洋画家、濱邊萬吉（はまべまんきち）さんに学びました。1952年に神戸へ移住、西宮市民美術教室に通い、西宮市展や芦屋市展といった公募展に出品を続けました。1955年に開催した芦屋公園での野外実験展で色水をビニールに吊るして木に吊るした作品を発表、具体美術協会（具体）のリーダー吉原治良さんに評価され、具体に加入し、中心メンバーとして活躍しました。

絵具の流動性と強烈な色彩を用いた抽象絵画を制作。1966年、ジャパン・ソサietyの招きでアメリカに渡り、アクリル絵具やエアブラシを使用した明るい色調でのびのびとした明快な形態を描く作風に大きく変化しました。1970年代より絵本を多く手がけており、代表作に『もこ もこもこ』（1977年、谷川俊太郎 作/元永定正 絵）、『もけら もけら』（1990年、山下洋輔 作/元永定正 絵）などがあります。

元永さんのことを知りたい!調べたい!と思ったら、芦屋市立美術館に来てくださいね。



《うえのかたちはななつ》1988年
160.0×260.0cm アクリル、布
※作品は全て芦屋市立美術館蔵

具体美術協会（具体）
1954年 - 1972年



画家・吉原治良（1905-1972）をリーダーとして、1954年に兵庫県芦屋市で結成されたグループ。関西を拠点に国内外で実験的な活動を展開しました。泥に飛び込んだり、足で描いたり、大きな紙を体で破ったり、絵具を入れた瓶を投げつけて描いたり、身体性もちいた制作をおこないました。その後、アンフォルメル運動（フランスを中心に展開した抽象絵画の動き。物質性と描く行為を重んじ、定まった形を否定し力動感あふれた筆触や激しい色彩を用いた表現を行った）と結びつき、国際的に注目されるグループとなりました。

写真提供：大阪中之島美術館



芦屋市立美術館

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12-25 TEL:0797-38-5432 <https://ashiya-museum.jp> ashiyahihaku 芦屋市立美術館